

宇仁校区「あったか友愛推進大会」を開催しました

2月18日(土)、八王子会館において「あったか友愛推進大会」を開催しました。まず、昨年9月に実施した「青野町あったか声かけ作戦」の報告がありました。研修会では、認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座、DVD鑑賞、意見交換の内容が進められ、認知症の病態の変化、認知症発症をきっかけに思い悩む本人と家族の気持ちの変化や対応のポイントを学びました。意見交換では、「あいさつ、会話をしていきたい」「行事の参加を声かけして一緒にでかける」など日常生活における基本的なコミュニケーションが重要であるという意見が多く出ました。認知症になってからも安心して暮らしていける地域づくりには、普段からの地域での見守りや声かけを行うことが非常に重要であることを再認識しました。

続いて、mottoひょうごの栗木 剛氏から「つながりは大事～地域づくりについて」という演題で講演がありました。栗木さんは約30年前、加西市の小学校において、「やまんじい」の愛称で自然学校の指導者として活躍された方です。栗木さんは、日常生活の中でのいろいろな場面を例に挙げながら、人との出会いのチャンスである行事に積極的に参加することにより、脳の活性化が図られ、それが認知症の予防につながることを繰り返し話されました。そのためにも、現在コロナで中止、縮小されている地域の各行事がコロナ前の状態に戻ることを強く願っておられました。今回の講演では、会場の参加者全員が栗木さんの楽しく解りやすいトークに引き込まれながら、地域のつながりの大切さを一体となって学ぶことができました。



(宇仁校区はつらつ部会)

宇仁っていいな♪

宇仁小学校2年生13人は、生活科で自分たちの住む宇仁の町を知る学習の中で、鍛冶屋町のワイン醸造所「ポタニカル・ライフ」を見学させていただきました。「宇仁にそんなところがあるんだ！」と目を輝かせて出発！

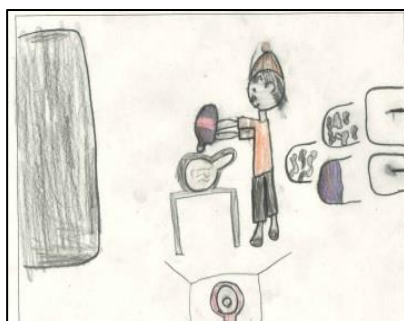
現地では、生産者の福永さんに、ブドウの苗や醸造所内を見せていただきながらワイン造りの工程を教えてくださいました。その中で、福永さん自身が感じられた、宇仁の景色の美しさ、自然の豊かさ、人の温かさを語ってくださいました。「そんな宇仁だから、移住してきた。」と聞いた子どもたちは、「宇仁っていいところなんだな。」とちょっと誇らしげ。

福永さんがワインづくりを始められたのは約8年前。ちょうど、2年生の子どもたちが生まれた年です。「感慨深いなあ。」と呟かれる福永さんご夫妻に、子どもたちは、「大人になったら、ワイン飲みに来るからねー！」「またねー！」と元気いっぱい手を振って帰ってきました。

子どもたちなりに、「宇仁っていいな。」と感じられる見学になりました。



ブドウをいろいろなしゆる
いの土をつかってそだてる
のが、びっくりしました。ぶ
どうには、人の目では、見ら
れないぐらい小さな生きものが
ついていて、えみさんも
ワインを作るのを手つだ
うていました。
(ふくだひろと)



はたらいているのは、ふくなが
さんとえみさんです。ポタニ
カルライフはワインを作ると
ころです。ふくながさんは、
こだわりがあって、ワインに
くすりを入れてなくて、
ワインのびんをおしゃれに
するためにロウをぬってかわ
いくしていたので、すごいな
と思いました。(つねみねはるひ)

(宇仁小学校 教頭 渡邊雅美)

佐用町「地域づくり協議会」視察団来訪

2月21日13時30分より、佐用町の地域づくり協議会視察団16人が研修にやってきました。宇仁郷からは会長他6人で対応しました。「百聞は一見に如かず」で、まずパワーポイントを活用して宇仁郷まちづくり協議会11部会全体の説明を行い、その後各質問に答えていきました。

色々な質問がありましたが、「何故まちづくり協議会を設立したのですか」の質問には、宇仁小学校新校舎建設のためには地域の総力を挙げた事業と「運動の中核」が必要だったので、平成20年に宇仁郷まちづくり協議会を立ち上げたことを説明、また「地域主体型バスの運転には特別な免許証が必要ですか」等のバス運行関連の質問には、岡本部長が「普通免許証」で行けます等、明快に回答しました。

佐用町から「マンネリ化のためかも知れないが、最近地域づくり協議会の事業に人が集まらなくなって来た、どうしたらよいでしょうか？」との質問には「原則的にはですが要求要望のあるものに焦点を当て、粘り強く事業展開しないと成果も出てこないのではないのでしょうか。」など、質疑応答をしているうちに定刻となり散会しました。その後視察団は、次の視察会場の日吉地区へ慌ただしく向かいました。（事務局）



里山・川環境整備部会活動



2月18日(土)朝8時に八王子会館前に集合、最初に参加者の集合写真を撮り、里山・川環境整備部会事務局から作業内容と草刈り機の取り扱いの注意、特に作業者間の間隔を十分にとること、足元を注意することなどを説明しました。その後、準備体操のラジオ体操第一を行って体を慣らし、作業現地に向かいました。

今年も、作業区域を2か所とし、一つは、鏡山の北東部に当たる約500㎡の雑木林の下草刈りを国正町、田谷町の皆さんで、もう一つは、油谷川の田谷町大歳神社の橋から川上の宮田橋までの区間の除草とごみの収集などを青野町、小印南町、鍛冶屋町と油谷町の皆さんで、それぞれ分かれて作業を行いました。

里山は、以前に伐採した木の株などがあって危険なため作業間隔をあけて行い、8時30分頃から始め、中休憩を取りながらも、10時には予定区域の作業を無事終了し、八王子会館前に戻り解散しました。また、川の除草作業も同じ時刻に始め、作業箇所が川底で道路よりかなり低いため、草刈りした草を側道に上げるなど手間が掛かりましたが、皆さんの協力で収集した草などを神社に運び、こちら10時頃にはけがもなく無事に作業を終え現地解散しました。

作業していただいた皆様には苦勞をお掛けしましたが、大変きれいになりました。どうもありがとうございました。川の除草作業については3年間の期限つきで始めましたので、今年でひとまずの区切りとし、今後の川の整備活動については検討課題とし、里山整備についてはしばらく継続していきます。（里山・川環境整備部会）

宇仁郷のあゆみ 第二章 宇仁郷まちづくり協議会の群像達⑬

宇仁郷まちづくり協議会

5. 協議会の組織

平成20年2月23日の総会模様は宇仁郷通信160号(令和4年11月号)で紹介しましたが、25項目の活動項目の展開を「5か年計画」にまとめ、中期の目標を共有し、単年度の結果評価とその修正を加えながら実践して果実を求めていくことにしました。

毎月の定例会議(幹事会)でよく議論し、決めごとを6町の部会と施策を企画実践する部会をクロス掛けにして役割分担を明確にしたマトリックス構成で運営する組織にしました。

宇仁郷まちづくり協議会運営組織イメージ

